

授業科目名・形態	地域社会での健康支援体制と実際 演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者名	川村 泰子・藤田 碧	実務経験の有無	有	開講期	4 年前期

【授業の主題】

健康は社会環境の変化の影響を受け、その中に人々の生活があります。地域の健康課題を解決するために社会構造や社会情勢の変化を理解し、多職種連携の考え方や実態と課題について学修します。また、健康危機管理や国際保健についても学びます。

【到達目標】

1. 地域連携について説明できる。
2. 健康危機に対応する公衆衛生看護活動を説明できる。
3. 地域の健康課題解決に向けた地域組織の役割と組織支援について説明できる。
4. 公衆衛生看護活動における地域の支援体制づくりについて説明できる。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 暮らしの基盤としての地域
- 第 2 回 地域組織の育成・支援
- 第 3 回 地域組織活動・グループ支援 (1)
- 第 4 回 (演習) 地域組織活動・グループ支援 (2) : グループ支援におけるファシリテーターの役割
- 第 5 回 (演習) 地域組織活動・グループ支援 (3) : 地域組織活動のリサーチ
- 第 6 回 (演習) 地域組織活動・グループ支援 (4) : 地域組織活動のリサーチ結果の発表
- 第 7 回 地域包括ケアシステムと地域保健活動
- 第 8 回 ケアシステムと社会資源
- 第 9 回 多職種連携に意義と方法 (1)
- 第 10 回 多職種連携の意義と方法 (2)
- 第 11 回 システムの構築と地域ケア会議
- 第 12 回 健康危機管理 ―災害時の社会的対応システム―
- 第 13 回 (演習) 災害初期の保健活動と看護職の役割
- 第 14 回 (演習) グループワーク発表、国際基準に沿った災害対策
- 第 15 回 国際保健の現状

【授業実施方法】

講義、演習

【授業準備】

授業前後で配布する資料を熟読し、事例についてイメージを持ち予備知識の充足、授業後の理解の定着を行う。

【主な関連する科目】

「公衆衛生看護活動展開論Ⅰ・Ⅱ」等 公衆衛生看護学の科目および「公衆衛生看護学実習」

【教科書等】

荒賀直子ほか：公衆衛生看護学第 5 版 インターメディカル

【参考文献】

随時、資料の配布や参考図書を紹介する

【成績評価方法】

授業態度 (リフレクションペーパー) 5%、演習、演習に伴う提出物 (15%) 定期試験 (成績 80%)

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

行政保健師経験等を活かし、公衆衛生看護活動のダイナミクスを伝えていきます。

【学生へのメッセージ】

ニュース等に関心を持ち、社会で起きていることを感じ考えることが大切です。